

ひろば

Vol.147

HIROBA

発行日：2024. 1. 29 発行人：安達 洋次郎

〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5 TEL & FAX 03-5371-2732 (事務局)

<http://www.kougei-dousoukai.jp> dousoukai@kougei-dousoukai.jp (受信専用)

祝・東京工芸大学創立100周年！



大学創立100周年記念特集

創立100周年学長メッセージ

記念式典・祝賀会

写大祭

100の笑顔展

芸術学部フェスタ

定時会員総会

同窓会会長賞・奨学金授与式

決算書・予算書

ひろばのページ

卒展/卒展×同窓のつどい 予告



次の100年に向かって同窓生と共に

東京工芸大学は、いまから100年前の1923年、日本で最初の写真専門の高等教育機関である小西写真専門学校として創立しました。

19世紀初頭に発明された写真は、テクノロジーとアートが融合する新しいメディアとして、世界を一変させる大きな可能性を秘めていました。そんな写真の教育を原点とする本学は、当時の写真に関わる産業・学術・芸術の各界から第一線で活躍する人材が結集して創立した、極めて先進的かつ独創的な高等教育機関だったのです。

この100年間に社会や人々の生活は大きく変化しました。私が学生として本学に入学したのは

ちょうど40年前の1983年のことです。その頃と比べても、本学はあらゆる面で大きな発展を遂げています。そこであらためて現在の本学の姿を見てみれば、創立時の先進的で独創的な教育は、いまでも本学の特色としてしっかりと継承されていることを実感します。その原動力となった、これまでに本学に関わられてこられた諸先輩方の豊かな創造力と弛まない努力には敬服せざるをえません。

100というのは単なる数字の区切りに過ぎないかもしれませんが、教育機関として100周年を迎えられることは誇るべきことだと思います。そして、その長い歴史と伝統とは、ここで学んだ同窓生の皆様が築き上げ、支えてくださっていることに間違いありません。私が同窓生の皆様の代表として、この創立100周年に立ち会えたことは誠に幸甚に存じます。

この100周年を機に、本学の独自性と強みを再確認し、より力強い大学として次の100年へと踏み出していきたいと考えております。次の100年はこの100年にも増して変化の激しい時代となると思いますが、東京工芸大学は、これからも同窓生の皆様と共に、輝かしい未来に向かって歩み続けてまいります。

東京工芸大学 学長
吉野 弘章



1923年 創立時の小西写真専門学校 幡ヶ谷校舎



1923年4月 創立時の教職員と第一期生



創立時の写場



1950年 東京写真短期大学 中野校舎 竣工時に制作されたポストカード



芸大学は創立100周年を迎えました

東京工芸大学創立100周年記念式典

2023年11月10日(金)に大学創立100周年記念式典が、東京都写真美術館1階ホールにて開催されました。式典に先立って「東京工芸大学100年のあゆみ」と題する歴史ビデオが上映され、酒井専務理事の開式の辞に始まり、岩居理事長、吉野学長の式辞と続いていきました。来賓祝辞として盛山文部科学大臣の代読で、文部科学省の村上私学

部参事官にご祝辞を頂き、学生代表の古賀学友会会長の挨拶がありました。

東京都写真美術館地下1階展示室では、11月11日～12月10日の会期で、記念展「写真から100年」が開催され、式典当日は先行内覧会で一足早く展示を見ることができました。



岩居理事長



酒井専務理事



吉野学長



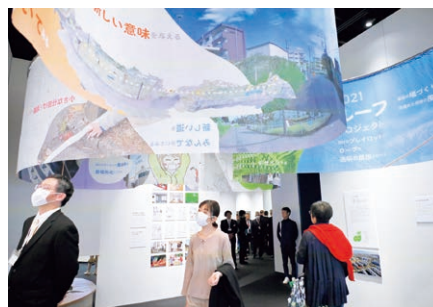
(文部科学大臣 盛山正仁様)
代読 文部科学省 村上良行様



古賀学友会会長



記念展「写真から100年」先行内覧会の様子



写真提供：都筑写真事務所

特集

創立 100 周年



東京工芸大学創立100周年記念

記念式典に引き続き、ウェスティンホテル東京地下2階「ギャラクシールーム」に会場を移し、記念祝賀会が開催されました。大学に関わりのある多くの方々が来場され、会場は終始賑やかでした。出席した皆さんが歓談で楽しむ中、大学の歴史ビデオの上映や杉浦家への感謝状贈呈、校歌斉唱

などの盛りだくさんの企画が催されました。また、杉浦六右衛門パネルと一緒に記念撮影をする、写真学科学生による「スナップ撮り隊」や、マンガ学科学生による「マンガ似顔絵隊」のコーナーも盛り上がっていました。「次の100年」に向かって大学はとても良いスタートが切れました。



祝賀会、盛大に開催



特集

創立 100 周年



写大祭

2023年10月8日(日)・9日(月・祝)に中野キャンパスの学園祭が開催されました。大学創立100周年を祝して、今年度に限って名称を「中野祭」から旧称の「写大祭」に変更して開催されました。今年のテーマは「光跡」。光の通った跡が残像としてつながって見えることを表す言葉で、大学の

100年という長い歴史の中での功績、軌跡を今回の“写大祭”で表現したいという思いが込められていました。ダンスパフォーマンスやアーティストライブ、作品展示、演劇、数々の屋台などなど、たくさんの企画で、学生や一般の来場者は盛り上がっていました。





映画「トイと正人」上映+鶴田真由×小林紀晴トークセッション

写大祭にあわせて大学創立100周年記念の「大学公開特別企画」が開催されました。



監督
小林紀晴写真学科教授



本作ナレーション
女優・鶴田真由さん

写真提供：都筑写真事務所

特集

創立100周年



東京工芸大学

創立100周年特別企画

「100の笑顔展—子どもの笑顔は未来に何をメッセージしているのか—」

2023年9月9日～29日に東京工芸大学6号館ギャラリー6B01にて「100の笑顔展」と題する写真展が開催されました。参加したのは、公募で集まった写真学科、映像学科、デザイン学科の学生約30名。被写体は、“カラフルモデル”と呼ばれる障がいのあるキッズモデル22名です。大学のスタジオや中庭で、学生とカラフルモデルがコミュニケーションを交わしながら賑やかに撮影が行われました。

この企画は、少なからずこれまで障がい者がネガティブな存在とみなされることの多かった社会

において、カラフルモデルが活発に活動する様子を社会に発信することによって、多様性を認め合いすべての人がお互いの人権と尊厳を大切にする「インクルーシブ社会」を実現させる一助となることを願って実行されました。

プロジェクトの中心は、カラフルモデルたちと東京工芸大学の学生たちです。これからの100年を担う子どもたちと若者たちが、互いに出会い、撮影を通じて何を感じ、何を考えたのか、それこそが未来へのメッセージとなるでしょう。



初日に開催された オープニングレセプション



企画を担当したデザイン学科福島教授(右)と写真学科上田教授(左)

企画：福島 治(デザイン学科教授) 上田耕一郎(写真学科教授/75期写真学科)
参加学生：伊東桃奈 小瀬真央 島崎蓮子 高桑蒼依 田村優希 本田理子
矢野 秋 YU WAIHUGO 内海幸雪 木原 龍 栗原みのり 針谷藍乃
大河内拓海 佐々木杏葉 伊東千穂 相原新奈 伊東丈流 YIN LWINMYINT
宇都木皐 遠藤幹弥 菊地桜風 倉田小町 佐藤厚介 中山聖来 仁保島未琴
真柄誠行 山中祐輝(以上27名：写真学科)
望月 禅 山中夏希(以上2名：映像学科)
佐藤舞香 椎橋里華 CHANG DAEUN(以上3名：デザイン学科)

企画協力：内木美樹(株式会社華ひらく代表/カラフルモデルマネジメント)

葛谷舞子(Photostudio-Home 主宰/75期写真学科)

協力：齊藤真澄(有限会社カポック/78期映像学科) カワノミオ(写真学科助教/82期写真学科) 高田有輝(写真学科助手/91期写真学科) 立川宏司(有限会社レイテック/42期写真工業科) 下込 萌(元 写真学科助手/90期写真学科) 石毛大介(GE framing service/75期写真学科)

2回にわたって開催されたカラフルモデルの撮影会



華ひらくの内木氏(右)とPhotostudio-Homeの葛谷氏(左)

「芸術学部フェスタ」百花繚乱

「芸術学部フェスタ」は、芸術学部の教員が制作や研究の成果を発表するイベントで、毎年秋に開催されています。節目の10回目を迎えた今年は、100周年を記念して、初の教員全員参加で、キャンパスの至るところで展示・上映が行われました。

会期：2023年11月6日～12月1日



吉野学長



高山隆一教授
(大会公開委員長)



写真提供：都筑写真事務所

令和5年度定時会員総会

令和5年度定時会員総会が7月25日、本学・中野キャンパス1号館1B01教室にて開催されました。

冒頭の安達会長の挨拶の後、議長に安達会長を推して議事に入り、第1号議案の「令和4年度事業報告及び令和4年度決算報告書の承認」を審議、事業委員会、総務委員会、広報委員会、100周年事業委員会、そして決算報告がなされ、すべて原案通り承認可決されました。

続いて第2号議案に移り、任期満了に伴う役員改選が行われ、以下のように選出されました。

会 長 安達 洋次郎
副会長 田村 寛 進藤 博信 内藤 明
専務理事 立川 宏司 上田 耕一郎
常務理事 山口 敏郎 三上 賢 宮崎 洋
勝倉 峻太 岡本 久美子 小川 誠
会計監事 鈴木 克明 磯田 正和
理 事 内田 勲 岡村 征夫 小山 昌男
小林 俊郎 金居 光由 山口 規子
熊切 大輔 有馬 秀樹 木下 恵修
工藤 洋司 小宮 広嗣 新城 敦
石井 清士 岸 剛史 高島 圭史
菅泉 亜沙子 長田 夏実
栗原 昌美 飯田 修
代表委員 山田 仁 新藤 健一 川端 秀樹
上條 正名 小関 雅章 坂本 佳子
福田 美緒 川島 崇志 大澤 暁空
伊藤 哲史 篠田 優 影山 あやの

蛭田 真渚 細野 彩音
佐藤 渚彩 森 まどか
高松 千愛里 佐宗 祐美
木内 康晴 中林 優香
刈田 ルーク 二ノ宮 颯太
椿原 愛海 伊藤 湧
石井 琉偉



冒頭で挨拶する
安達会長

引き続き、報告事項として令和5年度事業計画について、事業委員会、総務委員会、広報委員会、名簿委員会、及び会計委員会より令和5年度予算計画についての説明がなされ、確認されました。

この後、「東京工芸大学同窓会創立100周年記念事業」について報告され、下記の通り事業を進めていくことが確認されました。

●100周年記念事業の目的及び趣旨の検討

- ・同窓会の活性化
- ・年代、分野を超えて同窓生が参加しやすく活動したくなる同窓会の構築
- ・同窓生ならびに大学双方に有益な同窓会の確立

●記念事業内容の検討

- ・Air同窓会会館(仮称)の構築
- ・式典ならびに記念事業の検討

●日程の検討

- ・令和5年度から令和8年度に実施

●実行委員会設置について

- ・事業委員会とは別に同窓会創立100周年記念事業の実行委員会を設置

●予算について

- ・新たに特別会計の区分をもうける
- ・予算実施については事務局運営会議で決議し実行する

以上の内容で総会は閉会し、同窓会会長賞、奨学金授与式へと移りました。



令和5年度 同窓会会長賞・奨学金

令和5年度の同窓会会長賞と奨学金が授与されました。会長賞は芸術学部4年次生が対象で、顕著な作品を制作した学生、将来有望であると認められる作品を制作中の学生へ贈られます。また奨学金は修学継続の意志が強固である芸術学部3、

4年次生に対して支給されます。今年は、7月25日の大学中野キャンパス大講義室で行われた総会後、引き続き授与式が挙行政され、今後の活躍が期待される学生に授与いたしました。

令和5年度東京工芸大学同窓会会長賞

学科	学年	氏名
写真学科	4年	大矢 彩加
映像学科	4年	鈴木 凜太郎
デザイン学科	4年	井上 知也
	4年	佐藤 舞香
インタラクティブメディア学科	4年	共同作品制作「目覚まし肩パッド」 本学学生：齋藤 達也
アニメーション学科	4年	共同研究「アニメーションミュージックビデオの研究」 代表者：大槻 亜有実
マンガ学科	4年	秋元 良太
ゲーム学科	4年	チーム制作「5びょうこのきみと」 代表者：市川 元久

令和5年度東京工芸大学同窓会芸術学研究科奨学金

所属	学年	氏名
芸術学研究科(ゲームメディア領域)	1年	ZHANG KAIYANG(チョウ カイヨウ)

令和5年度東京工芸大学同窓会芸術学部奨学金

学科	学年	氏名
写真学科	4年	道場 美秋
映像学科	3年	YANG RUISI (ヨウ エンシ)
デザイン学科	4年	池田 夢
	4年	城石 友介
インタラクティブメディア学科	4年	土屋 研斗
アニメーション学科	3年	及川 千暖
マンガ学科		該当者なし
ゲーム学科	4年	松島 宗平



同窓会会長賞「受賞のことば」

大矢 彩加(写真学科4年)

この度は、このような素晴らしい賞をいただき、本当にありがとうございます。受賞の通知を受けた際は驚きでなかなか実感が湧きませんでした。今はじわじわと喜びを噛み締めています。しかしこれは私一人の力ではなく、先生方や仲間、家族のお蔭だと強く感じています。制作物に対する的確なアドバイスや自分よりも冷静で客観的な分析、そして気兼ねなく相談できる環境に日々とても救われています。大学生生活も残り少なく寂しいですが、在学中及び卒業後も制作活動や大学企画に精力的に取り組んでいきたいです。

鈴木 凜太郎(映像学科4年)

この度は、同窓会会長賞という輝かしい賞を頂戴し、誠に光栄に思います。今回の受賞のきっかけとなった『こころざしと東京の街』という10分の短編映画は、授業外でも自主的に作品を撮り続けてきた同期生の協力のもと制作されました。東京工芸大学での4年間で映像制作や脚本理論など多くのことを学ばせていただきましたが、その中で同じ志を持った切磋琢磨し合える友人に出会えたことが何よりも貴重だったと感じています。制作に協力していただいた関係者の皆様、これまで指導してくださった先輩や先生方に心より感謝申し上げます。

井上 知也(デザイン学科4年)

この度は、東京工芸大学同窓会会長賞を受賞できたこと、大変嬉しく思います。本学に入学してから一学生として周りと同様に領域を専攻し、その中で指導者である教授からの教示を咀嚼し吸収していくという一連の流れを遂行することで、今回の受賞に至る成果を出せたということは自身にとって大きな分水嶺のように感じます。よって、これからも初心を忘れずに、自身の作品制作においてより一層励んでいき、実績を積んでいきたいと思っています。

佐藤 舞香(デザイン学科4年)

このたび会長賞をいただくことができたのは、よき先生方と、よき友人に恵まれたおかげだと思っています。尊敬する先生方のもとで、色々なものを吸収しながら制作に取り組んでいる時間は、私にとって何よりも充実していて楽しいものです。そうして夢中になって取り組んでいった結果、このような賞に選んでいただいたことは驚きであり、とても嬉しく思います。今回の受賞を励みにして、今後もグラフィックデザインを楽しみながら、日々精進していきたいと思っています。このたびは素敵な賞をありがとうございました。

齋藤 達也(インタラクティブメディア学科4年)

友達と一緒に作った「目覚まし肩パッド」がヒーローズリーグで受賞したことがきっかけで、同窓会会長賞も受賞することができました。とても嬉しいです！私たちの作ったデバイスは、電車で肩にもたれかかって寝てくる人に肩パッドからアラームを鳴らして起こす画期的な発明品です。これがあれば電車内の絶妙に気まずい状況をスマートに解決できます。私は主にコンセプトとデザインを担当しました。本体の造形には大学の3Dプリンタが活躍してくれました。効率ばかりを追い求めるのではなく、「ふふっ」と笑顔になれる素敵な社会になればいいなと思います！

大槻 亜有実(アニメーション学科4年・共同研究「アニメーションミュージックビデオ研究」代表)

この度は大変名誉な賞をいただき、誠にありがとうございます。プロの方と共同研究という形で「秋」「東京ミッドナイト」それぞれのメンバーが多く刺激をいただける素晴らしい機会をいただけたことを重ねて感謝申し上げます。「秋」は、ラブソングにも関わらずMVでは友情物語という面白さのある作品、「東京ミッドナイト」は曲の疾走感を活かしつつ、ネオンの画面が魅力的な作品になったと思います。今回いただいた賞を自身の誇りとし、また各々の経験や反省を今後活かして、これからも精進してまいります。

秋元 良太(マンガ学科4年)

この度は同窓会会長賞をいただき、誠にありがとうございました。大学から突然心当たりのない封筒が届いたときは、何かよからぬ通告なのではないかと正直肝を冷やしましたが、受賞の通知と分かり安堵したのを覚えています。思いがけない受賞という貴重な経験をさせていただくとともに、今までの活動や成果をこのようなかたちで肯定いただけたこと、大変光栄に存じます。同窓会の皆様ならびにお世話になっている先生方、私を支えてくださる方々へ、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

市川 元久(ゲーム学科4年・「すばむ」代表)

この度は、東京工芸大学同窓会会長賞を頂戴し、誠に光栄に思います。「すばむ」は人を楽しませる作品を作るという目標に一直線に進むことのできるチームであり、また、一人一人がチームのために頑張れる素晴らしいチームです。自分はこのチームで制作することができ、とても大きな成長と貴重な経験を得ることができました。そして、このチームのメンバーで賞をいただくことができたのが私の一番の喜びであり、誇りでもあります。私の学生生活はもう少しですが、残りの時間も初心を忘れず、多くの人を楽しませることのできるよう精進していきたくと思います。



同窓会会長賞・奨学金授与 懇親会



令和4年度(2022年)東京工芸大学同窓会決算書

〈自: 令和4年5月1日~至: 令和5年4月30日〉

【一般会計】

(単位: 円)

Table with 4 columns: 科目, 令和4年度予算額, 令和4年度決算額. Includes 1 会費, 2 雑収入, 3 前期繰越, and 合計.

支出の部

Table with 4 columns: 科目, 令和4年度予算額, 令和4年度決算額. Includes 1 事業費, 2 会議費, 3 管理費, 4 特別会計, and 合計.

令和5年度(2023年)東京工芸大学同窓会予算書

〈自: 令和5年5月1日~至: 令和6年4月30日〉

【一般会計】

(単位: 円)

Table with 4 columns: 科目, 令和4年度決算額, 令和5年度予算額. Includes 1 会費, 2 雑収入, 3 前期繰越, and 合計.

支出の部

Table with 4 columns: 科目, 令和4年度決算額, 令和5年度予算額. Includes 1 事業費, 2 会議費, 3 管理費, 4 特別会計, and 合計.

【特別会計・総務委員会会計】

(単位: 円)

Table with 4 columns: 科目, 令和4年度予算額, 令和4年度決算額. Includes 1 前期繰り越し残高, 2 預金利息, 3 雑収入, 4 一般会計より繰り入れ, and 合計.

【特別会計・名簿委員会会計】

(単位: 円)

Table with 4 columns: 科目, 令和4年度予算額, 令和4年度決算額. Includes 1 前期繰り越し残高, 2 預金利息, 3 雑収入, 4 一般会計より繰り入れ, and 合計.

【特別会計・総務委員会会計】

(単位: 円)

Table with 4 columns: 科目, 令和4年度決算額, 令和5年度予算額. Includes 1 前期繰り越し残高, 2 預金利息, 3 雑収入, 4 一般会計より繰り入れ, and 合計.

【特別会計・名簿委員会会計】

(単位: 円)

Table with 4 columns: 科目, 令和4年度決算額, 令和5年度予算額. Includes 1 前期繰り越し残高, 2 預金利息, 3 雑収入, 4 一般会計より繰り入れ, and 合計.

【残高証明書発行手数料口座】

(単位: 円)

Table with 4 columns: 科目, 令和4年度予算額, 令和4年度決算額. Includes 1 前期繰り越し残高, 2 預金利息, 3 一般会計より繰入, and 合計.

名簿委員会会計 令和5年度へ繰越

Table with 4 columns: 科目, 令和4年度予算額, 令和4年度決算額. Includes 差引残高.

【特別会計・基本財産】

(単位: 円)

Table with 4 columns: 科目, 令和4年度予算額, 令和4年度決算額. Includes 1 前期繰り越し残高, 2 預金利息, 3 一般会計より繰入, and 合計.

【残高証明書発行手数料口座】

(単位: 円)

Table with 4 columns: 科目, 令和4年度決算額, 令和5年度予算額. Includes 1 前期繰り越し残高, 2 預金利息, 3 一般会計より繰入, and 合計.

名簿委員会会計 次年度へ繰越

Table with 4 columns: 科目, 令和4年度決算額, 令和5年度予算額. Includes 差引残高.

【特別会計・基本財産】

(単位: 円)

Table with 4 columns: 科目, 令和4年度決算額, 令和5年度予算額. Includes 1 前期繰り越し残高, 2 預金利息, 3 一般会計より繰入, and 合計.

収入の部

Table with 4 columns: 科目, 令和4年度予算額, 令和4年度決算額. Includes 1 前期繰り越し残高, 2 預金利息, 3 一般会計より繰入, and 合計.

資産残高 令和5年度へ繰越

Table with 4 columns: 科目, 令和4年度予算額, 令和4年度決算額. Includes 差額残高.

Table with 4 columns: 科目, 令和4年度予算額, 令和4年度決算額. Includes 1 みずほ銀行中野坂上支店, 2 三菱UFJ銀行中野支店, 3 三井住友銀行中野坂上支店, 4 東京信用金庫中野坂上支店, and 合計.

収入の部

Table with 4 columns: 科目, 令和4年度決算額, 令和5年度予算額. Includes 1 前期繰り越し残高, 2 預金利息, 3 一般会計より繰入, and 合計.

資産残高 次年度へ繰越

Table with 4 columns: 科目, 令和4年度決算額, 令和5年度予算額. Includes 差引残高.

Table with 4 columns: 科目, 令和4年度決算額, 令和5年度予算額. Includes 1 前期繰り越し残高, 2 預金利息, 3 一般会計より繰入, and 合計.

37期製版科クラス会

通称製版科(写真工業科写真製版技術専攻)37期(1962年卒)のクラス会を令和5年5月31日に、東京銀座7丁目のライオン日本橋店で開催した。卒業時には52名であったが11名が鬼籍入りで、現在では41名が全国に存在している。学生時代の実習項目の中で、湿板写真等を行なったがその後はフィルム使用による写真製版となった。さらに時代の進展に伴いアナログそしてデジタルへと技術革新が進む中、それまでに写真製版業界を牽引してきた仲間達であった。今回は、八方一治先生を囲んで81~83歳の12名が参加して楽しく旧交を温めた。そして最後は中澤慎一君の締めで、次回もみな元気で参加出来るように祈念して楽しい2時間を閉会とした。



幹事・石川充彦(37期)

写大45期九州同期会in北九州

2023年6月11日・12日、北九州小倉にて、同期10名に加えて先生1名、44期2名、46期1名の参加もあり例年以上の盛り上がりでした。2024年は熊本天草での開催を予定しております。ぜひご参加を！

正木 やよい(45期)



東京工芸大学芸術学部卒業・大学院修了制作展2024に向けて

「東京工芸大学芸術学部卒業・大学院修了制作展2024」が2024年2月16日(金)から18(日)まで3日間、中野キャンパスで開催されます。

「東京工芸大学芸術学部卒業・大学院修了制作展2024」は大学創立100周年を迎えた2023年の節目を超え、101年目となる新たな1ページの大きなイベントとなります。また、2021~2023年は新型コロナウイルスの影響により、招待制という制限下での開催となりましたが、2024年に関しましては、大きな社会的変化がなければ2020年以前と同様の通常開催となる予定です。

この度研究成果を報告する主な学生は、学部生はコロナ禍という想像すらしなかった異例の事態の中で1年生として本学に入学して来た学生で、また大学院生はまだ収まることの無い苦境の中で研究を始める事となった学生です。そのような社会情勢のなか、やむを得ず限られた状況での学習・研究をスタートし、ようやく以前と同様のスタイルで研究制作に打ち込むことが出来るようになり成果報告に至りました。

委員会では「東京工芸大学芸術学部卒業・大学院修了制作展2024」の展示上映が以前と同様に充分かつ円滑に進められるよう、芸術学部一丸となってしっかりと準備を進めております。写真、映像、デザイン、インタラクティブメディア、アニメーション、ゲーム、マンガ7学科の卒業研究と大学院芸術学研究科の修了制作研究の成果報告となります。

いずれも以前と比して勝るとも劣らない優れた成果となっていることと思います。是非、学生たちの集大成となる研究成果をご覧頂き、若い現役の学生への励ましの一声を頂戴出来ますと幸いに存じます。

皆様のご来校を心からお待ちしております。



東京工芸大学芸術学部卒業・
大学院修了制作展委員会委員長
准教授 水谷 元

東京工芸大学芸術学部卒業・大学院修了制作展2024メインビジュアル「うえいくあっぷみらくる!」三枝 志帆(デザイン学科4年)

34期製版科クラス会

令和5年10月25日14時より、コロナ禍で5年振りのクラス会開催となった。会場は前回同様の都立小石川後楽園近くの日中友好会館1階の「ふく」。はじめに、昨年秋に他界した升水敏男氏のご冥福をお祈りして黙祷を捧げた。その後、幹事の加藤 甫氏の挨拶で開会となった。参加者は9名でやや少なかったが、それでも遠方の神戸市からの参加者もいた。例によって各人による近況報告があり、その後懇談となった。この会のメンバーは皆80代半ばのため、体調管理や健康維持の話題が多かった。 八方一治(34期 写真工業科 写真製版技術専攻)



IM & MA 交流会

大久保真道教授の呼びかけで、インタラクティブメディア学科(IM)とメディアアート表現学科(MA)の卒業生や教員が、2023年8月26日(土)に中野キャンパスの一室で交流会を行いました。マレーシアからのオンライン参加やご家族の来場も含め55名の参加があり、プログラム前半はいろいろな方の最近の仕事や活動の報告、後半は小グループに分かれての世代を超えた交流がなされました。同窓会からは内藤明先生と工藤洋司さん(73期 写真学科)の参加があり、飲み物などを提供していただきました。参加者からは、今後は学科を超え、現役学生も含めたりして、さらに交流の輪を広げていきたいという声が上がりました。



35期写真工業科製版技術専攻同期会

コロナが「5類感染症」に移行されて約4ヶ月諸規制が緩和され、2023年9月27日(水)八方先生をお迎えし、4年ぶり同期会を開催しました。卒業して63年、高齢による体調不良で数名の欠席者は避けられず自称健康体の先生を含め7名が「食・話」から「話・食」へ変わり、約3時間余り、昔々にタイムスリップして和やかに 楽しい時間を過ごしました。 宮内辰蔵(35期)



第45回 2024フォックス・タルボット賞

今年もタルボット賞の作品募集が2023年12月18日～2024年1月23日の期間で行われました。2024年2月上旬に大学キャンパス内の掲示板および大学公式サイトにて入賞発表が行われ、2月下旬より写大ギャラリーにて写真展が開催される予定です。

- 審査委員：立木義浩、中谷吉隆、小林紀晴、梁丞佑、本城直季(敬省略)
- 受賞写真展：2024年2月26日(月)～3月23日(土)(会場：写大ギャラリー)
- 表彰式：3月2日(土)
- 主催：東京工芸大学 協賛：東京工芸大学同窓会

おたより 「ひろば」の感想とわたしの近況報告

“ひろば” vol.146は充実した内容で、p.18の投稿文を、興味深く読み、その方の人生の苦楽を、感じました。フォックス・タルボット賞の受賞者の方々おめでとうございます!!特に沖縄をテーマにされた、星子桃花さんの、作品を見たいなと思いました。(私の生まれ故郷なので) わたしの近況報告

卒業10年以上たつのに、おっちょこちょいにも、フォックス・タルボット賞に応募してしまいました。見事に落選でした。

絵は、ぼつりぼつりですが、描いています。絵描き作家として、のんびり、生活は、苦しいですが、これからも、絵や写真を、がんばろうと、思います。コロナも終息になりますが、気を付けてくださいね。

林田 洋子(旧姓 広瀬)(64期 画像技術課デザインコース)



おたより 拝啓 初めてお便り申し上げます

当時の学生は殆どが営業写真館の子息であり、撮影技術の研修は乾板を使用していました。裕福な学生はライカやコンタックスを使用していましたが、余裕のなかった私は、リコーフレックスという二眼レフカメラを5,800円で購入して使用していました。体育の授業では、中野の学校から新宿駅まで歩けば、1単位もらえるという時代でもありました。

卒業後、カメラ販売を経て出版社に入社し、希望の映像局に配属され、映像撮影も行いました。日本の万国博覧会には全て参加。また全国の国立公園にあるビジターセンターの展示や映像撮影も手掛けました。定年退職後は、アマチュアビデオを手掛けています。私が在職していた会社の社是は「これからの教育は光と音と文字である」でした。今の若い人は、ともすれば映像の面白さを追求することに走り、音や文字への関心は薄いのではないのでしょうか。元来映像作品は、見た人に感動や共感を与えることが基本です。そのためには、しっかりとした構成や起承転結、適切なインタビューの方法、画面だけでは伝えることが出来ない事象に対するナレーションなど、大切な事柄が多々あります。「一歩階段上がるためには」という冊子は、映像制作に関

して経験の浅い学生さんのために同封しました。又、ディスクの「限界集落に命の糧と元気を運ぶ移動販売車」は、極力ナレーションを少なくし村人との会話や現場音を活かして制作した作品です。この作品は、2013年の東京ビデオフェスティバルでグランプリを受賞しました。審査員の故・高畑 勲監督から、「まさに表記通りの内容。移動販売車の安藤夫妻の誠実周到な準備から、集落での販売・配達・交流までまことに円滑に17分の中に過不足なく捉えられているのは見事だが、それだけではない。この販売車は、まるで田舎の教会のようなコミュニティセンターとしての機能を果たしている。毎週、安藤さん夫妻のおかげで、村人同士の交流の機会が生まれている。それが説明でなく実感として画面から伝わってくる。そして、声を高めることがないのに限界集落の問題点がおのずと浮き上がってくるのだ」という講評を頂きました。現在私は87歳、今度は「50年前には原発は無かった」というタイトルで新しい作品を制作しようと思っています。

内田一夫(31期 写真技術科)

(誌面の都合上、実際のお手紙の文章を編集して掲載させて頂いています。)

おたより 写真集「ボーダーツーリズムの記録1997-2022」を出版しました

私は母校を卒業後、北海道の地元に戻り、市役所職員として働いていました。60歳で定年退職する際、若い頃に抱いていた夢を実現すべく、第二の人生を写真家として歩むことにしました。テーマは日本最北端の街である稚内市に住んでいることから、かつては日本領「樺太」今はロシアが占領している「サハリン」そして「国境」としました。サハリンへは退職後、写真家として二十数回にわたって渡航してサハリン島の隅々を訪ねて日本領であった樺太時代の遺構を撮影しました。これらの写真をまとめて紀行文をそえた写真集「サハリンに残された日本」を2017年に出版、多くの方から貴重な記録だとの声をいただきました。

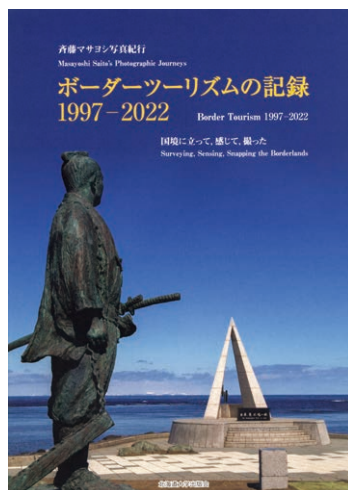
その後は、サハリンに留まらず日本周辺の国境域を旅して、太平洋戦争時の戦跡や国境域ならではの文化のグラデーション、歴史背景などをカメラで切り取るという作業を行ってきました。これらをまとめた写真紀行「ボーダーツーリズムの記録」を2023年3月に出版いたしました。

2020年からはコロナウイルス禍、2022年2月にはウクライナ戦争が始まって、私がフィールドとしているロシアや中国などには行きにくくなっています。また行ったとし

ても以前のように自由な取材は不可能となりました。そこで、現在は「内なるボーダー」というテーマで国内各地を取材旅行しています。

送られてくる同窓会誌「ひろば」を拝見して、後輩の皆さんが常に先駆性を求めてご活躍しているのを嬉しくかつ誇らしく思っています。

斉藤 マサヨシ(50期 写真技術科)



展示会・出版の記録

展：展示会名 作：作者 所：場所 期：会期
※学年、職位等は開催当時のものです



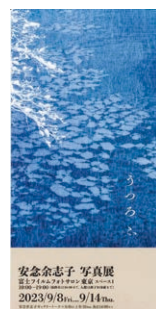
展：金森玲奈 チャリティー写真展「イヌネコLovers vol.6」
作：金森玲奈(写真学科79期)
所：Maison PHOTOGRAPHICA
期：2023.6.17-2023.6.25



展：大和田良写真展「UNDERWATER」
作：大和田良(写真学科77期)
所：hpgrp GALLERY TOKYO
期：2023.7.21-2023.8.26



展：山下晃伸写真展「夜光性動物観察記」
作：山下晃伸(写真学科82期)
所：富士フォトギャラリー銀座
期：2023.8.25-2023.8.31



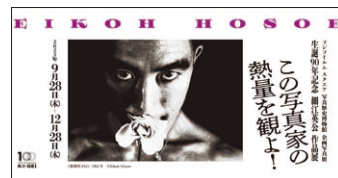
展：安念余志子写真展「うつろふ」
作：安念余志子(写真技術科46期)
所：富士フィルムフォトサロン
期：2023.9.8-2023.9.14



展：立木義浩写真展「肖像-時」
作：立木義浩(写真技術科33期)
所：東京工芸大学 写大ギャラリー
期：2023.9.8-2023.11.1



展：東京工芸大学創立100周年特別企画「100の笑顔展」
作：福島 治 教授(デザイン学科) 上田 耕一郎 教授(写真学科)
【写真学科】伊東 桃奈・小瀬 真央・島崎 蓮子・高桑 蒼依・田村 優希・本田 理子・矢野 秋・YU WAIHUGO・内海 幸雪・木原 龍・栗原 みのり・針谷 藍乃・大河内 拓海・佐々木 杏葉・伊東 千穂・小川 晴太郎・相原 新奈・伊東 丈流・YIN LWINMYINT・宇都木 隼・遠藤 幹弥・菊地 桜風・倉田 小町・佐藤 厚介・中山 聖来・仁保島 未琴・真柄 誠行・山中 祐輝
【映像学科】望月 祥・山中 夏希 【デザイン学科】佐藤 舞香・椎橋 里華・CHANG DAEUN
所：東京工芸大学6号館・ギャラリー6B01
期：2023.9.9-2023.9.29



展：生誕90年記念 細江英公作品展「この写真家の熱量を観よう！」
作：細江英公(写真技術科29期)
所：フジフィルムスクエア写真歴史博物館
期：2023.9.28-2023.12.28



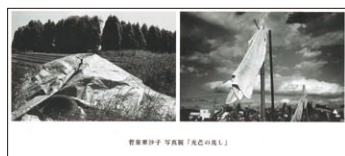
展：小島三幸 写真展「熱気 feel the heat」
作：小島三幸(写真学科78期)
所：RED Photo Gallery
期：2023.10.2-2023.10.15



展：内藤明写真展「more」
作：内藤明(写真技術科47期)
所：galleryEM
期：2023.10.18-2023.11.05



展：台湾フォトフェア「第10回台湾攝影藝術博覽會」
作：小島三幸(写真学科78期)
所：三創生活園區 12th Floor SHOW
期：2023.10.19-2023.10.22



展：菅泉亜沙子写真展「光芒の兆し」
作：菅泉亜沙子(写真学科88期)
所：Alt_Medium
期：2023.10.27-2023.11.8



展：東京工芸大学創立100周年記念展「写真から100年」
作：主催：東京工芸大学
所：東京都写真美術館 地下1階展示室
期：2023.11.11-2023.12.10



展：ボーダーツーリズムの記録 斉藤マサヨシ(写真技術科50期)
北海道大学出版会
2023.3.25

東京工芸大学同窓会主催

「卒展×同窓のつどい2024」開催のお知らせ

開催概要

- 開催日 2024年(令和6年)2月17日(土) ◇卒業制作展に来場された方はどなたでも入場できます。
 - 場 所 東京工芸大学中野キャンパス2号館 地下1階「プレイス」(学食) ◇同窓生と恩師、後輩達が集う“おしゃべりの場”としてお気軽にご来場下さい。
 - 時 間 15:00~17:30 ◇同窓生の方には記念品を差し上げます。
- ※事前申込不要。入場無料。時間内出入り自由。
※卒業制作展の会期中です。

訃 報

衷心よりお悔み申し上げます。

野崎 輝彦 (22期・写真光学機械科)	村田 明 (34期・写真技術科)
高橋 清 (23期・写真工業科)	下村 肇 (39期・写真印刷科)
佐伯 浩 (28期・写真工業科)	奥田 耕三 (40期・写真技術科)
中沢 穰 (29期・写真技術科)	中村 敏夫 (42期・写真技術科)
西浦 雅子 (30期・写真技術科)	中丸 靖彦 (42期・写真技術科)
(旧姓 佐久間) 石塚 嵩子 (30期・写真技術科)	小屋 貴 (44期・写真応用科)
牛山 廣己 (33期・写真技術科)	山崎 賢次 (45期・写真技術科)
安藤 皓之 (33期・写真工業科 写真製版技術専攻)	原田 正一 (46期・写真印刷科)
村松 宏美 (33期・写真工業科 写真工業技術専攻)	

(敬称略)

訃報は御親族の承諾を頂いた方のみ掲載させて頂いております。

編集後記

大学創立100周年を迎えた今年は、キャンパス内の至る所に「100」という文字が踊っています。今回の「ひろば147号」では、100周年の記念式典・祝賀会の様子をお伝えしたかったため、発行を1ヶ月半ほど遅らせて頂きました。そして、再来年2026年には私たちの同窓会が100周年を迎えます。同窓会では、100周年を機に同窓生の皆さんとますます強い絆で繋がっていくために、様々なアイデアを出し合っています。また皆さんとお会いできる日を楽しみにしております。

広報委員 上田 耕一郎(75期)